

# 座間市教育史 第一巻 近代資料編の刊行

～郷土愛の育成につながる基礎資料～

座間市教育研究所  
教育史研究員



座間市マスコットキャラクター「ざまりん」



# 座間市

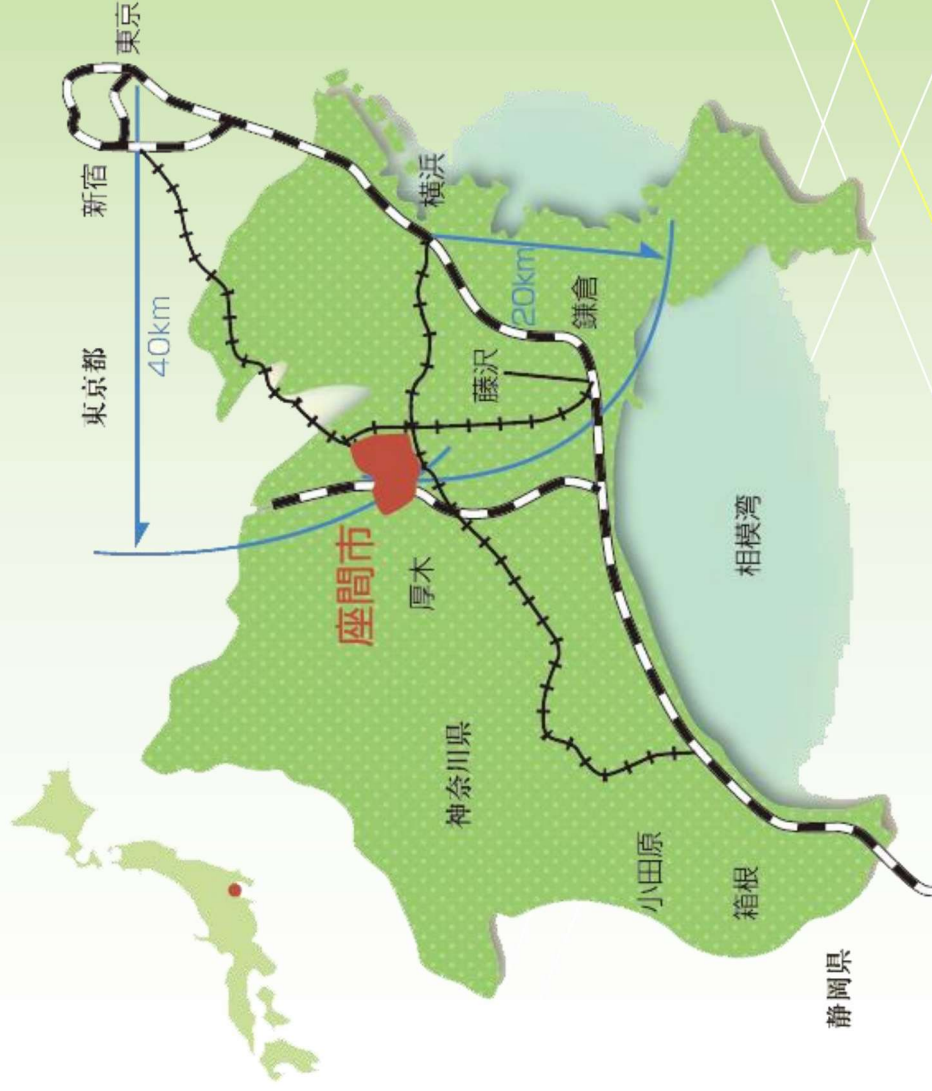
## 神奈川県 座間市

(かながわけんざまし)

【人口】 12,9027人(8/1現在)

【世帯数】 55,581世帯(8/1現在)

【面積】 17.58km<sup>2</sup>(4キロ四方)



# 座間市



**13m四方・重さ1トンの大凧  
大凧まつりの開催(5月)**



**水道水には地下水を利用  
缶ボトル「ざまみず」も販売**



**首都圏随一55万本のひまわり  
ひまわり祭りの開催(7・8月)**



# 第1部

## 教育史編さんの経緯

# 座間市の教育史編さんの必要性

## 座間市の状況

他市町村より後発。原因 市財政の逼迫(学校建設 市庁舎建設など)  
市制25周年または30周年記念事業に向けて、教育史編さんが話題となる。

## 近隣他市の状況(平成2~3年頃)

- 相模原市 昭和62年度完了
- 大和市 昭和46年度完了
- 海老名市 予算措置(着手) 近代資料編(平成13年刊)  
現代資料編(平成20年刊)  
綾瀬の教育よみもの三十撰
- 綾瀬市 予算措置(着手) = 文明開化から平和の発信地まで(平成10年刊)  
昭和19年度 當直日誌(平成13年刊)  
学童疎開 受け入れの思い出(平成15年刊)  
綾瀬中学校開校のころ  
(新制中学校のスタート)(平成16年刊)  
青年学校の教育(平成18年刊)  
綾瀬小学校 火災と震災を乗り越えて  
= 校舎再建と授業の様子=(平成20年刊)

# 当初の取り組み

- ・ 平成3年度

収集保管中の資料についての資料分別整理

(箱の詰め直しと簡単な資料目録作成)

保管場所(しかるべきところ)への格納

- ・ 平成4年度

資料の分別整理格納を継続

教育史研究会の発足(平成4年4月)

教育史編さんを前提とした研究員(3名)による調査研究

- \* 教育史年表編さんなどテーマ設定  
必要に応じて、各校に編さん協力員を設置

# 当時の教育史編さんの概略

- ・ 人員 編さん専門員 2～3人  
編さん協力員 17人（各校1名） 他一般より  
編さん委員会（年2回） 委員 10人  
学校教育関係者・社会教育関係者・学識経験者・市職員等）
- ・ 手順 第1年次（数年先）  
編集計画 資料収集 資料收集整理  
目録作成 編集方針策定  
第4年次  
内容項目作成・執筆  
編集・構成・刊行（通史第1巻）  
第6年次  
内容項目作成・執筆  
編集・構成・刊行（通史第2巻）  
第8年次  
内容項目作成・執筆  
編集・構成・刊行（資料編）

以上9年間の計画

# 教育史編さん室の発足

平成10年度 教育史編さん事業始まる  
平成12年度 教育史編集員の配置  
平成14年度 教育史調査員の配置

平成11年3月 子どもたちの心に燈を—座間幼年会に学ぶ—

平成12年3月 座間教育史資料第3集

平成13年3月 座間教育史資料第4集

平成14年3月 座間教育史資料第5集

平成14年11月 座間教育史資料第6集

平成16年3月 座間教育史資料第7集

平成18年7月 座間教育史資料第8集

平成19年3月 座間市教育史 年表編

平成20年3月 座間教育史資料第9集

平成21年3月 座間教育史資料第10集 上

平成22年3月 座間教育史資料第10集 下

平成26年3月 座間市教育史 第一巻 近代資料編



# 教育史編さん事業開始の遅れ

## 本市域の事情

- 陸軍士官学校(戦前・戦中)の存在とそれに関わる陸軍との緊密な関係から終戦を期に学校に駐屯していた旧軍隊による軍関係及び学校資料の焼却処分が行われた経緯があった。(特に駐留米軍への配慮)
- 昭和40年代末から50年代にかけての市の人口増加とそれに伴う学校の増築、分身校の新築に伴う市財政の圧迫
- 再三に亘る校舎の移転、改装などに伴う学校文書の処分や整理
- 保存文書の年限規定の制度化の浸透、戦後資料の消失も。
- 昭和16年 座間町の相模原町への吸収合併 国民学校への校名変更
- 昭和23年 座間町が相模原町から分離独立(分町問題)

# 教育史研究員

- 専従ではなく、教員の傍らの研究には限界があった。
- 座間市史編さん室との連携がとりにくい状況
- 教育史年表の作成により、座間の教育の変遷を多角的に捉える取り組み
- その後、平成8年度より大谷之彦先生が教育史研究会を相談役、牽引役として指導に当たるとともに資料の収集に奔走する。
- 平成8年度には教育史年表も江戸末期から昭和四十八年(市制施行)までの作成に漕ぎ着けるが、資料の不足のため、年度によっては空白部分もあり、内容が伴わず年表が形だけで終る危険性が危惧された。(年表作成の一時中断)
- 専従制度の導入(平成12年4月)  
元校長先生で、以前から地域史や学校制度に詳しく、市文化財保護委員であった大谷之彦先生の教育史編集員就任は、その後の教育史編さん作業の発展に大きな伸展を生んだ。

# 座間市教育史 第一巻 近代資料編について



# 気品ある教育尊重の町

# 構成

## 第一章 近代教育のあけぼの

(市域に於ける江戸時代後期の教育)

## 第二章 明治時代前期の教育

(明治五年学制発布から同二十二年町村合併まで)

## 第三章 明治時代後期の教育

(明治二十三年新小学校令制定から同四十五年まで)

## 第四章 大正時代の教育

(栗原小学校の合併、歴史教育研究発表会)

## 第五章 社会教育

(幼年会・少年団・青年会・処女会)

## 第六章 座間の教育に係わる冊子資料

(座間小学校施設要覧(明治編)・心の鑑

座間小学校施設要覧(大正編)

道徳的生活の完成と綴方科の関係に就いて)

# 第一章～第四章

## 第一章 近代教育のあけぼの

(市域に於ける江戸時代後期の教育)

## 第二章 明治時代前期の教育

(明治五年学制発布から同二十二年町村合併まで)

## 第三章 明治時代後期の教育

(明治二十三年新小学校令制定から同四十五年まで)

## 第四章 大正時代の教育

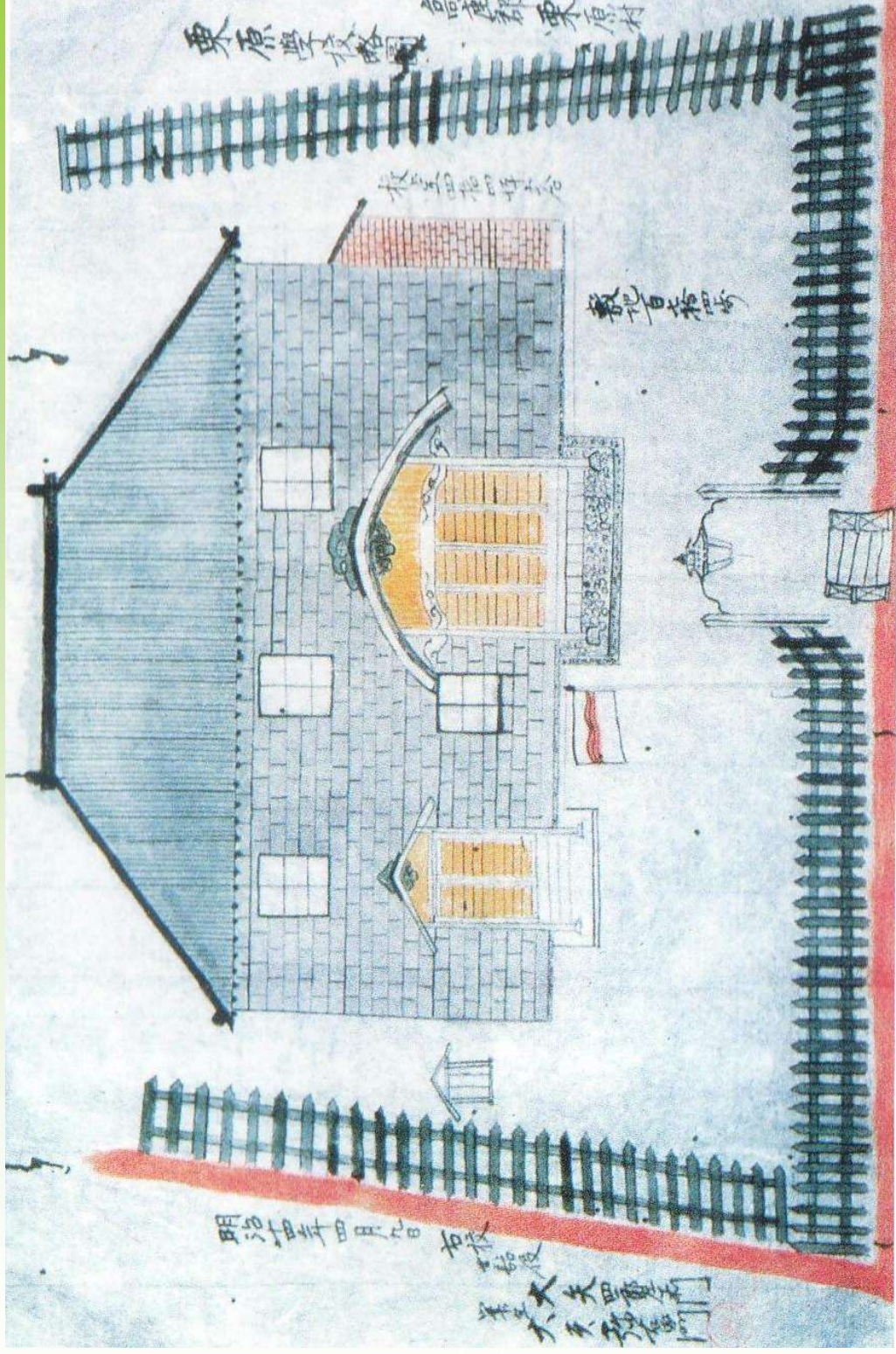
(栗原小学校の合併、歴史教育研究発表会)

# 大矢弥市 弥七兄弟 栗原村の「郷学校誠志館」



絵：大矢弥一泰臨

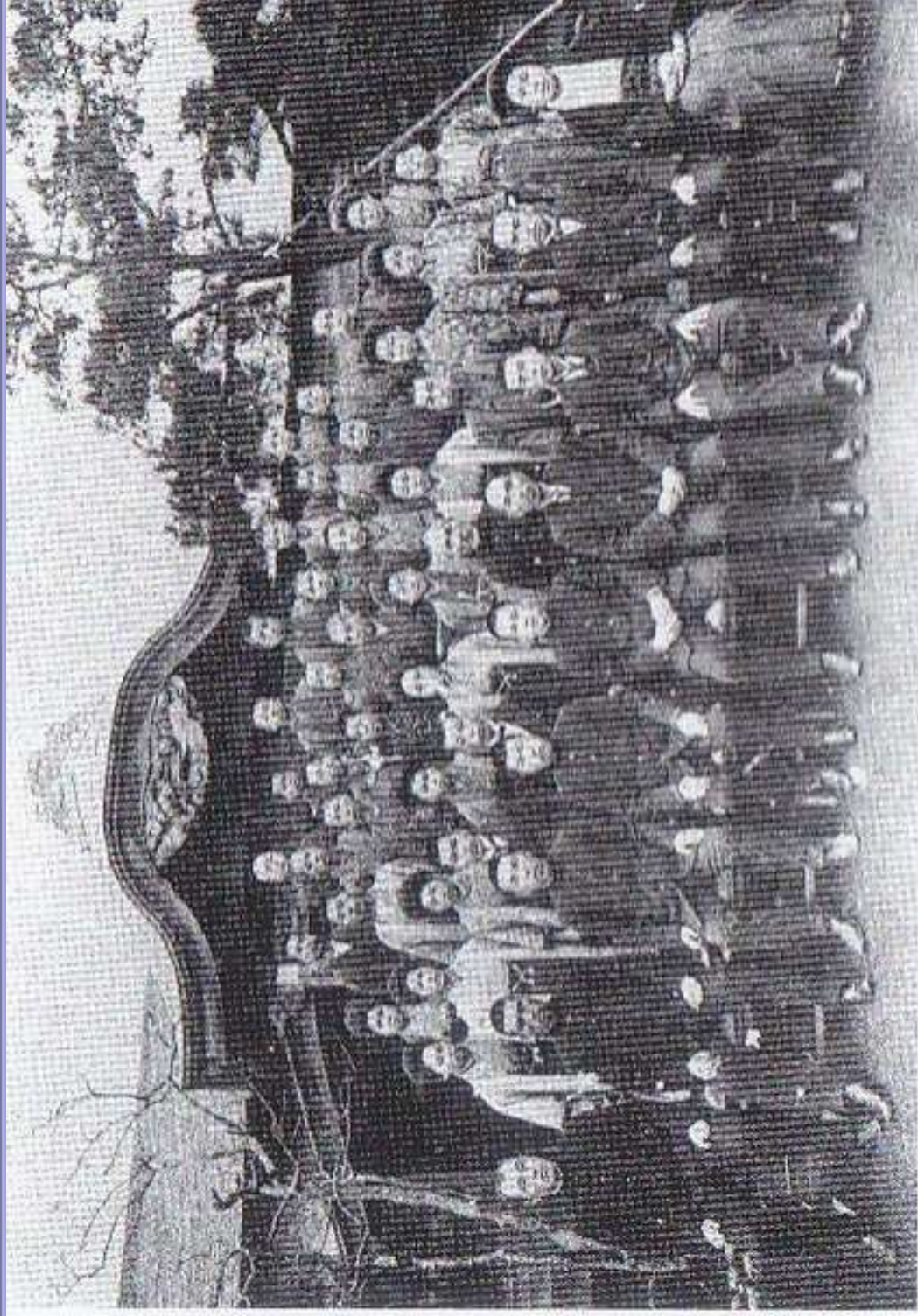
# 栗原学校の図面



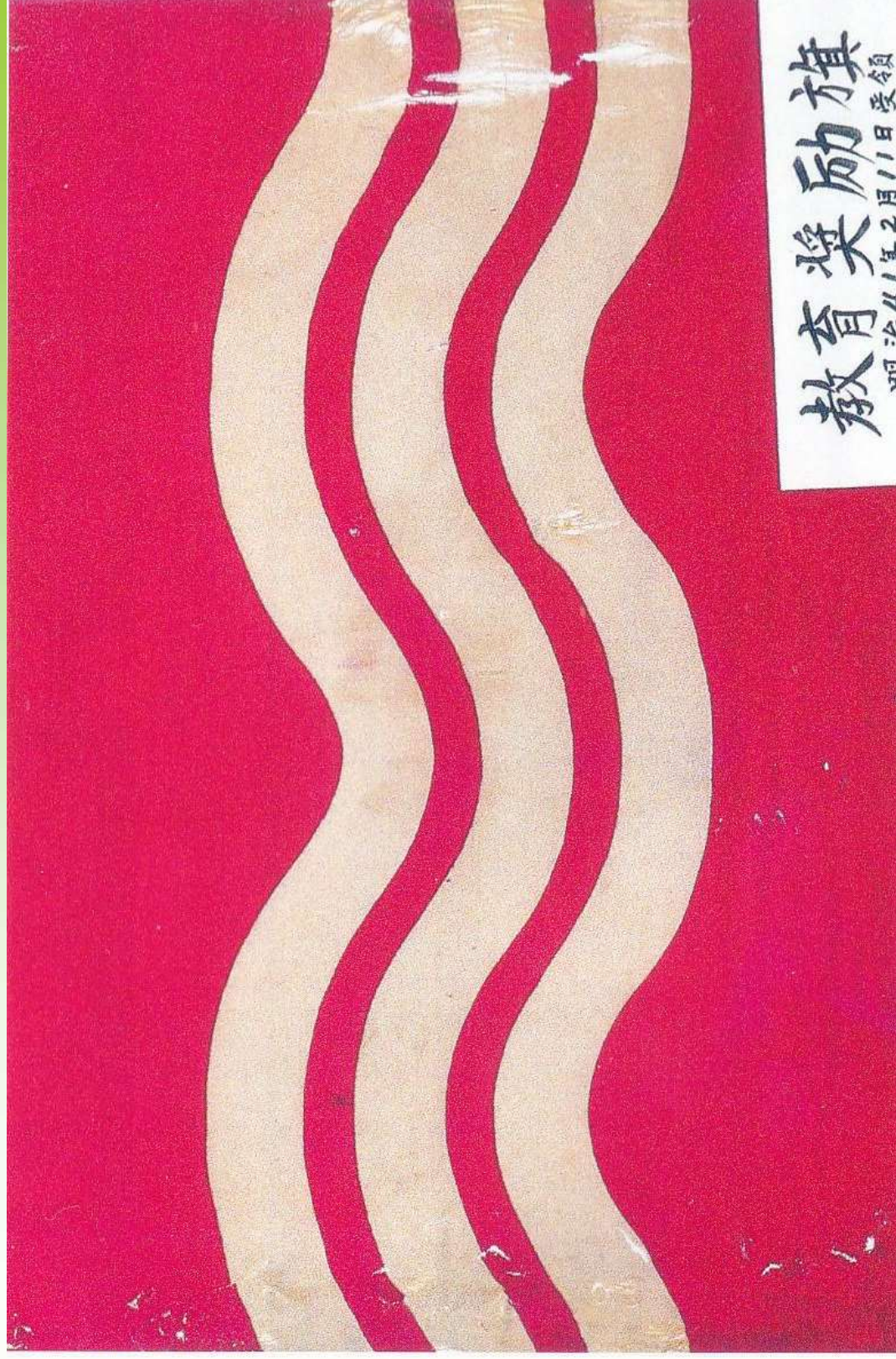


# 尋常高等座間小学校

## 開校の経緯



# 普通教育獎勵旗



# 第五章 社会教育

(幼年会·少年团

青年会·処女会)

# 座間村幼年会



# 座間村幼年会



# 鈴木利貞日記

